



Creative Application A13

美のメディア論2： これからのメディア社会

2023年度

渡邊 賢悟 (渡辺電気株式会社)

受講のてびき

- ・ 本資料は作成者の解釈が含まれます
解釈違いや、答えのない議論があります
- ・ 前半：1テーマの座学
- ・ 後半：テーマを深める質問と考察
- ・ 気になる点をメモして受講してください

資料の見方

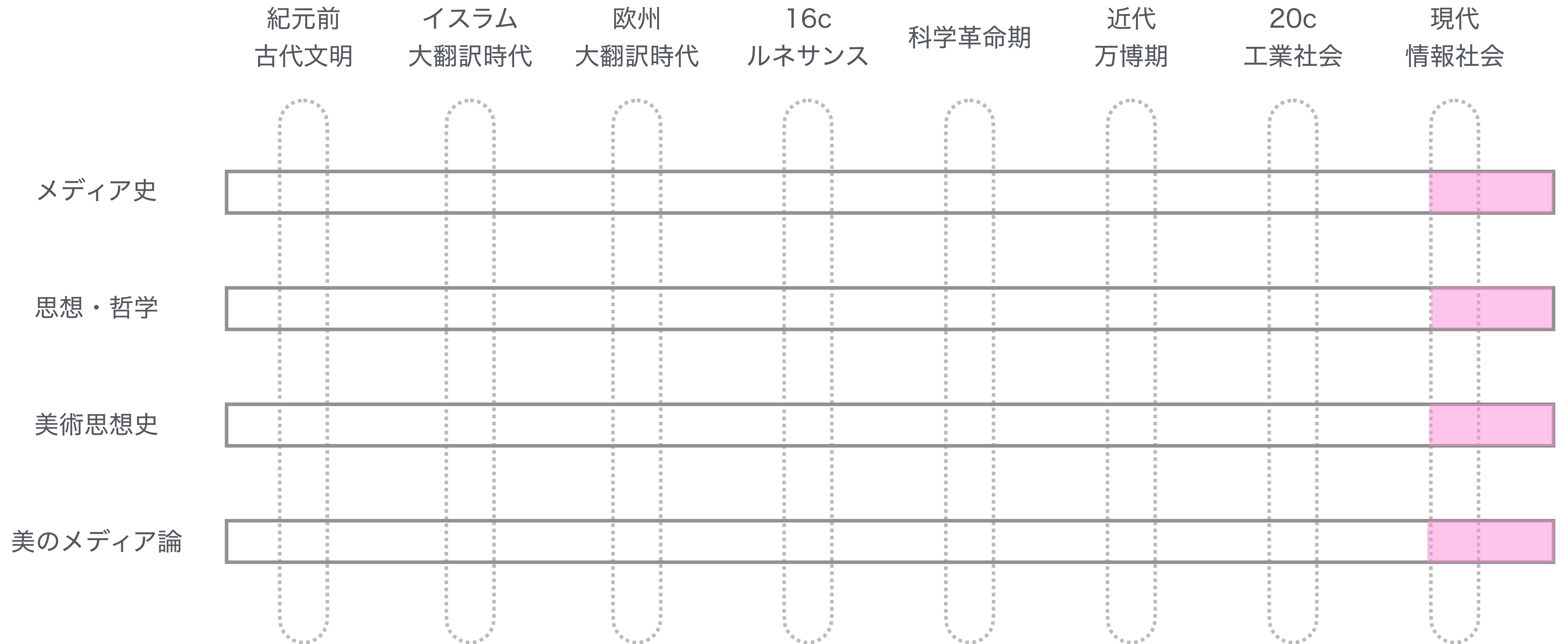
テーマに沿った項目
(座学で説明します)

左の内容に関連した
補足キーワード
(調べ物に役立ててください)

本日のテーマ

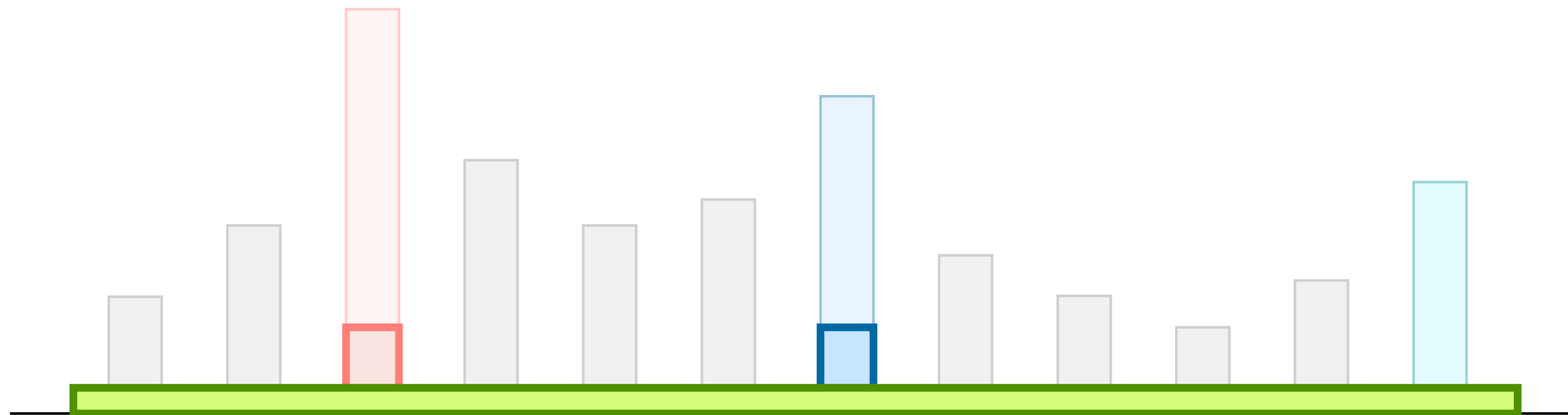
- ▶ **明日のメディアと社会を志向/思考/試行する**

演習の領域



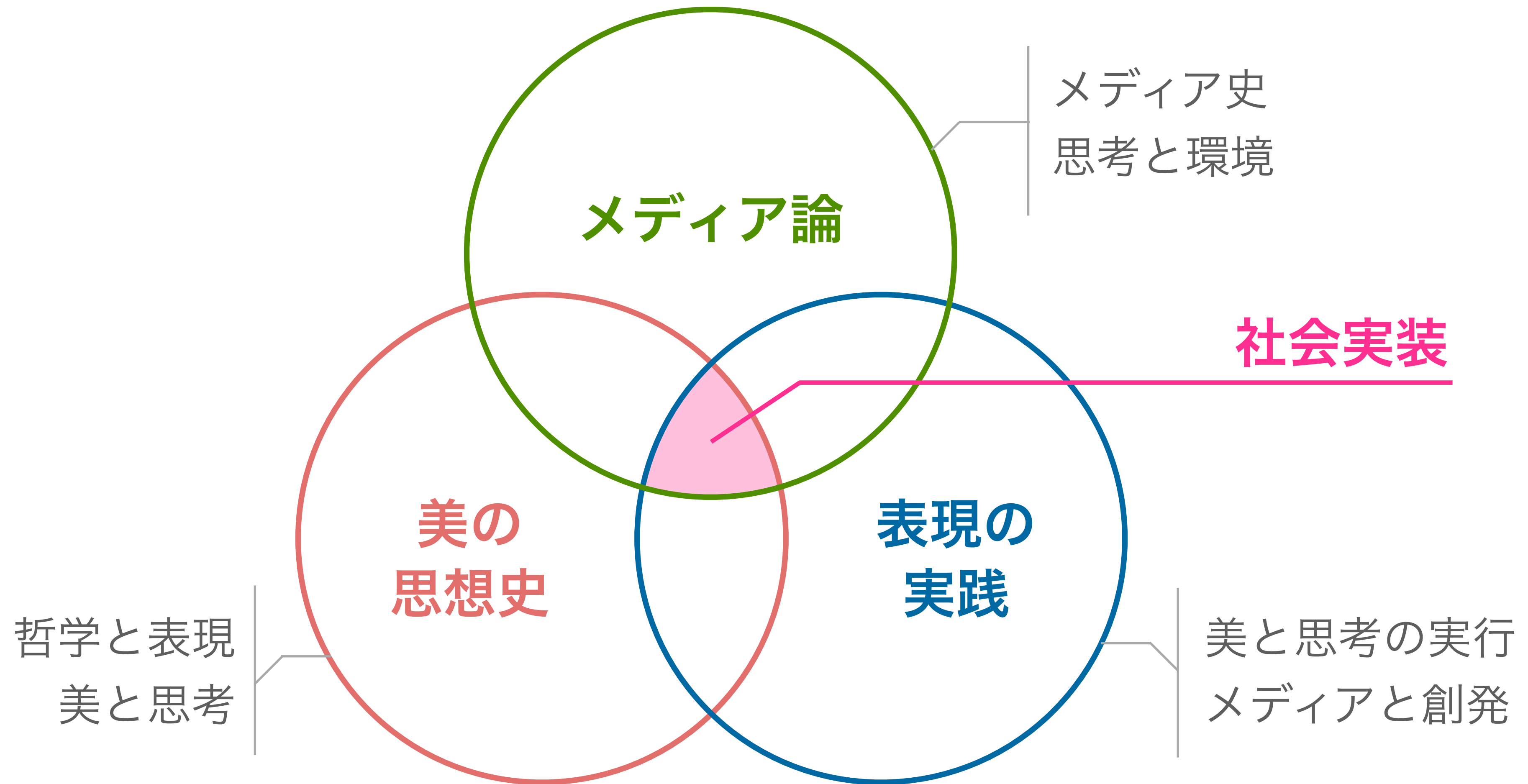
2つの役割

2つの専門性への導入

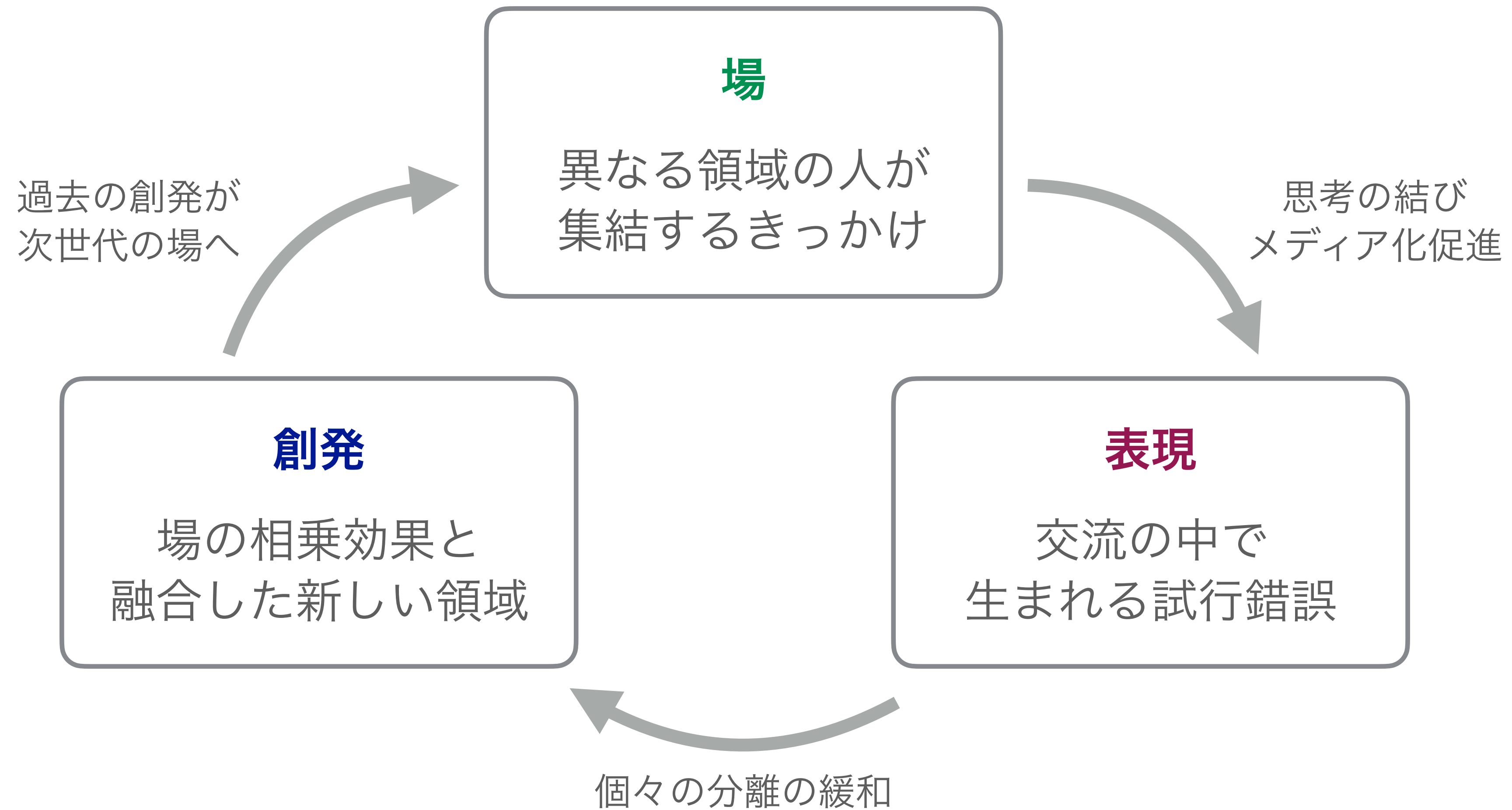


つなぎを支える思考

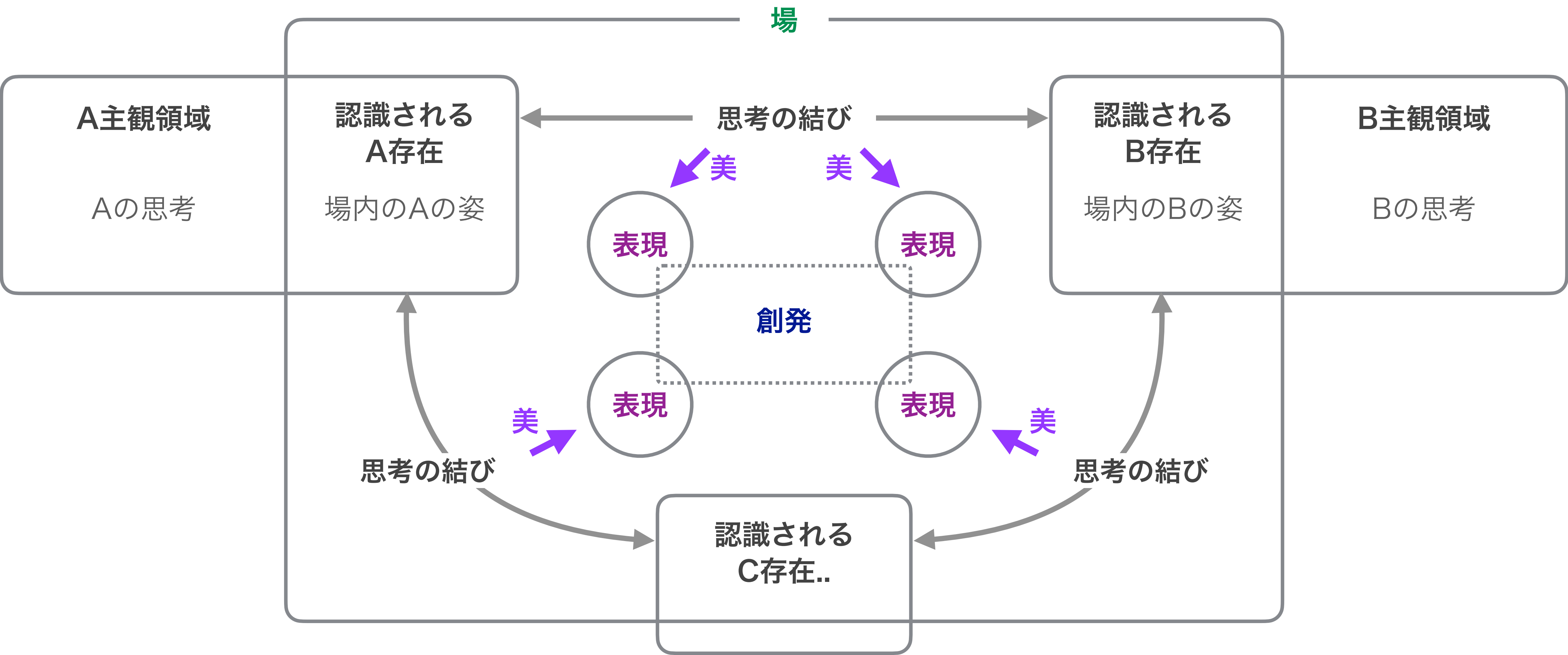
分野融合と社会実装



メディア・サイクル



メディア・モデル(2020 渡邊)



美とメディアと社会1：インターネット社会

- ▶ **デジタル通信技術というメディアの場**
 - ▶ 受発信の爆発的解放
 - ▶ 主観同士の隔絶 → **思考の結び**の必要性
 - ▶ 表現の困難さ → **美**の必要性

- ▶ ネット社会以降の表現では、
より思考の結びと美意識の重要性が増す

関連キーワード

美とメディアと社会2：Virtualと存在の社会

- ▶ **人間とVirtual領域と物質領域の関係性の変化**
 - ▶ Virtualのリアリティの模索
 - ▶ 存在の認識の変化の議論
 - ▶ 物質的豊かさと価値的豊かさ
 - ▶ 新たな身体性の模索

- ▶ **物質 + Virtualから，人間性の豊かさを考える**

関連キーワード

明日のメディアと社会を志向/思考/試行する

- ▶ **メディアで社会をサイクルさせる**
 - ▶ メディアの場を形成し, 各個を尊重する
 - ▶ 個人の思考を主張しあいつつ, 結ぶ
 - ▶ 美の主観性/普遍性を思索, 社会実装へ活かす
 - ▶ メディアサイクルを志向して活動する

本日の議論・考察一助

- a. 各自のダブルメジャー・マルチメジャーはどんなものがありうるか
- b. 主観性の視点から、人の話を聞く難しさを考えてみる
- c. 自分の志す分野に着目したとき、今後の社会においてどんなメディア化を推進すべきか
- d. その他、今回の内容で深めたいところがあれば

次回予定

- ▶ **最終回：総論**

参考文献

1. ウンベルト・エーコ著, 河島 英昭訳, 「薔薇の名前」, 東京創元社, 1990
2. マーシャル・マクルーハン著, 栗原 裕訳, 河本 仲聖訳, 「メディア論 人間の拡張の諸相」, みすず書房, 1987
3. 岡本 裕一郎, 「いま世界の哲学者が考えていること」, ダイヤモンド社, 2016
4. 竹田 青嗣, 「現象学入門」, NHK出版, 1989
5. 西垣 通, 「AI原論 神の支配と人間の自由」, 講談社選書メチエ, 2018
6. 藤田 一照, 山下 良道, 「アップデートする仏教」, 幻冬舎, 2013
7. 永井 均, 藤田 一照, 山下 良道, 「仏教3.0を哲学する」, 春秋社, 2016
8. 森田真生, 「数学する身体」, 新潮社, 2018
9. クァンタン・メイヤスー著, 千葉雅也訳, 大橋 完太郎訳, 星野 太訳, 「有限性の後で」, 人文書院, 2016
10. マルクス・ガブリエル著, 清水 一浩訳, 「なぜ世界は存在しないのか」, 講談社選書メチエ, 2018